

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3070103902
法人名	株式会社河北食品
事業所名	千代の里グループホーム
所在地 (電話番号)	和歌山市延時84-1 (電 話) 073-456-3312

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成 19年 9月 14日

【情報提供票より】(平成19年8月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 20人, 非常勤 4人, 常勤換算 19.2 人	

(2)建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	新築/改築
建物構造	鉄骨 耐火 造り	
	3 階建て	1 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200円		

(4)利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中江病院、野上歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「職員自らが過ごしたいと思えるグループホームを目指す」ことを目標にサービスを実施しており、それが利用者のおだやかな表情に表れている。利用者がちぎり絵や書道を教えた経験から、それらが数多く展示されている。また新聞の読み聞かせ・その間に挟む質問や、平家物語の端緒を職員の主導で唱えるなど、認知症の進行を緩和する独自の方法を実行しており、新聞のほか健康十訓や馴染みのある郷土物語、川柳を朗読するなど、頭脳を刺激するメニューが数多く用意されている。その他、食生活が変化に富み、四季の材料を使い工夫されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者・家族の意見を反映した介護計画は作成され、職員間で共有されている。地元の人々との交流については、小学生の踊り披露や夏祭りの開催以外は余り行われていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニットにより多少の相違があるが、利用者に関する面は職員の意見を聞き、各階の責任者がまとめて評価している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ開催されていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「千代だより」等を通じ相談・苦情窓口を設けており、各階に担当者がいることを知らせている。苦情等があれば、早急に対応し運営に活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学生が前の広場で踊りを披露して利用者と交流したり、夏祭を開催した以外には、地域活動には殆んど参加していない。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「職員自らが過ごしたいと思えるホームを目指す」という理念をつくりあげている。	○	地域密着型サービスとしての理念を付加することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの理念としては不十分である。	○	地域密着型サービスの理念を付加した上で共有されることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学生達が集団で踊りに来て利用者と交流したり、夏祭を開催しているが、現在ホームは地域活動に参加していない。	○	ホームから働きかけて、地域活動にできるだけ参加するよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解しており、自己評価は各階で責任者が職員の声を聞くなどして作成している。前回の外部評価については、介護計画は家族の意見が反映され職員間で共有されている。なお地域との交流についても、夏祭の実施方法等、改善するよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところ運営推進会議は行っていない。	○	早急に開催するようにしていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と行き来する機会をつくっているが、市と連携しサービスの向上に取り組むまでに至らない。	○	ホーム運営上の疑義があれば照会するなど、市との関係を密にし、ホーム運営やサービスの向上に努めるよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「千代だより」を出し季節の行事や外出の様子を写真等で掲載し報告している。健康状態に異常があれば直接電話で状況を話し、また金銭管理についても、月1回郵送にて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情等があれば、ホームの窓口担当者や外部の窓口に出示することができることを、契約時の書類や「千代だより」に記載している。メールでの受付も行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけしないようにしている。新しい職員が入るときは利用者に紹介し、早く利用者に馴染むように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は県グループホーム連絡会や介護普及センター等の研修に、業務の都合をみて、できるだけ公平に参加するようにしている。新任の職員には、夜勤は2回、平常勤務には2週間程慣れた職員が付き添いトレーニングを実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会の会員として、同業者と交流する機会をもち勉強会に参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの場の空気に慣れるために、本人・家族に見学に来てもらい、家族と相談して決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は介護される立場でなく、職員と一緒に過ごし、利用者の経験から家事等を教えてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者の要望や話を傾聴するようにし、それに沿ってケアを実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族とは、普段からよく話し合うようにしており、それを踏まえた上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直ししており、また心身の変化等が生じたときは、家族等と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じ外出を支援している。法人の特性を活かした行楽弁当を持参し楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が2週間に1度往診に来てくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用の初めに重度化した場合について説明しており、また利用者の病状により、かかりつけ医と家族の話し合いの場を持つようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重するよう日々心がけており、またプライバシーが外部に漏れないよう、徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースを大切に、無理強いないで利用者の希望にできるだけ沿えるように心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は栄養士の助言をもとに工夫し、味付けも大変良く水分も多く取っている。利用者も一緒に準備や後片づけをしている。介助の必要な利用者には職員が介助と見守りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ全員が毎日午後入浴している。入浴を楽しめるよう支援している。利用者の状況により対応したり、車椅子の人にも適宜対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	よく話を聞くようにし、話の中から経験や楽しみごとを聞き出すようにし、それを支援している。利用者の趣味は、ちぎり絵、書道、編物、川柳、囲碁、カラオケ等多彩である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよければ、一人ひとりがその日の希望に沿って、前庭のテラスや建物の横にある畑や買い物など、戸外に出ることを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は、朝から夜7時までは施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防火・避難訓練を行っているが、隣のタクシー会社以外の地域の人々に協力を働きかけていない。	○	近隣の住宅街の人々に理解と協力の呼びかけを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の身体の状況等に合わせ、主食や副食の量を調整している。水分の摂取は最低1000mlは摂るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共同室には季節感を出すような花やちぎり絵を飾ったり、書を貼ったりして生活感を出すようにしている。明るさも、またテレビの音や職員の声のトーンも適当と感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ちぎり絵を飾ったり、編物を置いたり、また写真を掲げたり、仏壇などの家具を持ち込んだりして、安心して過ごせるように配慮している。		